

2021 年度

**文京学院大学 まちづくり研究センターふじみ野
事業報告書**

2022 年 3 月

文京学院大学まちづくり研究センターふじみ野

はじめに

文京学院大学まちづくり研究センターふじみ野 副センター長
中山 智晴

2019年4月に本郷・ふじみ野キャンパスに「まちづくり研究センター(通称:まちラボ)」を開設しました。まちラボは、「地域がキャンパスだ!」を合言葉に、キャンパス内での学生の学びをキャンパスの外にまで広げる目的で、大学の教職員、学生と地域の方々や行政、企業をつなぐ学びの場として活動を展開しています。

この2年間、コロナ禍での活動という制約を受ける中で、特に人的交流が大きく制限されてきました。地域の誰もが参画し、様々な立場・世代が意見を交わし行動することで、より良い社会を形成していくことを目的とするまちラボの活動は大きな壁にぶち当たりました。人との交流の中でこそ、より良い地域づくりが達成されていくという当たり前のことを改めて感じています。

しかし、このような状況下でも学生たちは得意のオンラインを駆使し、可能な限り人との接触を避けた新たな活動の方法を模索・提案し、大きな壁を一枚ずつ破り捨て前進させていくという力強い姿勢を見せてくれました。通常とは異なる環境の中でも、皆で知恵を出し合い、得意なこと、不得意なことをお互いに理解しフォローすることで、多くの困難を乗り越えられ、さらには、より一層の信頼感が生まれてくることを感じ取れた2年間でもありました。

この2年間は、失うものもありましたが、新たに得られることも多い期間でありました。三歩進んで二歩下がるような状況が続いてはいますが、この経験は学生にとっても私たち教員にとっても、かならずや新たな成長に役立っていくことでしょう。

2021年度のまちづくり研究センターふじみ野の活動をまとめた報告書をここに発刊します。学生や教員、そして、共に働くセンター職員の思いや夢がお伝えできればと楽しみにしております。お手元に取りられ一読されましたら、ご意見などいただければ幸いです。今後の更なる発展を目指し学生とともに地域に必要とされるセンターを目指し突き進んでいきますので、応援をお願いいたします。

目次

1. センター概要.....	3
まちづくり研究センターふじみ野スタッフ（2021年度）.....	3
プロジェクト一覧（2021年度）.....	3
運営委員会開催状況（ふじみ野）.....	4
学生研究員加入状況（2021年度）.....	5
2. プロジェクト報告.....	6
芸術で探る地域の姿.....	6
地域の衣食住取材・発信企画.....	10
まちラボふじみ野ラッピングプロジェクト.....	14
障害者就労支援施設におけるインターンシップ・プログラム開発.....	18
みんなでつくるふじみ野昭和アルバム.....	20
3. プロジェクト以外の活動.....	24
2020年度オンライン成果報告会の開催（岩館豊）.....	24
「子ども食堂等活動報告会」への参加（岩館豊）.....	24
八雲通り商店会「WELCOME ステッカー」作成（菖蒲澤侑）.....	25
「ぶんぶんロゴタイプ・シンボルマークの使用に関する内規」の作成・承認（菖蒲澤侑）.....	26
まちラボふじみ野2021年度事業報告書の作成（栗原真史）.....	26
4. その他.....	27
申請稟議一覧（2021年度）.....	27

1. センター概要

まちづくり研究センターふじみ野スタッフ（2021年度）

名前	役職
古市太郎	センター長
中山智晴	副センター長
岩館豊	教員研究員
菖蒲澤侑	教員研究員
田嶋英行	教員研究員
武田和久	教員研究員
文野洋	教員研究員
栗原真史	研究員
渋谷由佳	事務員
三俣正治	学生支援センター長

プロジェクト一覧（2021年度）

プロジェクト名	担当者
1. 芸術で探る地域の姿	菖蒲澤・岩館・栗原
2. 地域の衣食住取材・発信企画	菖蒲澤・岩館・文野・栗原
3. まちラボふじみ野ラッピングプロジェクト	菖蒲澤
4. 障害者就労支援施設におけるインターンシップ・プログラム開発	田嶋・武田
5. みんなでつくる昭和ふじみ野アルバム	栗原・岩館

運営委員会開催状況（ふじみ野）

※2020年度・2021年度は、新型コロナウイルス対策のため、すべてオンラインで実施した。

【2020年度（1～3月）】

日にち（曜日）時間	回	外部委員
1月19日（火）10:00～11:30	第10回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
2月17日（水）13:00～15:30	第11回	岡部委員〔ふじみ野高校〕
2020年3月は開催されなかった	第12回	

【2021年度（2021年4月～2022年3月）】

日にち（曜日）時間	回	外部委員
4月20日（火）16:30～17:30	第1回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
5月18日（火）16:30～17:30	第2回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕 渡部委員〔ふじみ野高校〕
6月15日（火）15:00～16:30	第3回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
7月20日（火）15:00～16:30	第4回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕 渡部委員〔ふじみ野高校〕
8月26日（木）10:00～11:30	第5回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕 渡部委員〔ふじみ野高校〕
9月22日（水）15:30～16:30	第6回	渡部委員〔ふじみ野高校〕
10月26日（火）16:00～17:00	第7回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
11月22日（月）11:00～12:00	第8回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
12月10日（金）11:00～12:00	第9回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
1月21日（金）10:00～11:00	第10回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕 渡部委員〔ふじみ野高校〕
2月21日（月）14:00～15:00	第11回	上村委員〔ふじみ野市役所産業振興課〕
開催日未定	第12回	

学生研究員加入状況（2021年度）

		学年				総計
		1	2	3	4	
学科	コミュ社		4	10	23	37
	児童発達	2		1	1	4
	心理				1	1
	福祉	1				1
総計		3	4	11	25	43

*「2021年度学生研究員リスト」より作成

2. プロジェクト報告

芸術で探る地域の姿

【担当者（氏名）】（○：担当執筆者）

○菖蒲澤 侑、岩館 豊、栗原 真史

【目的】

ふじみ野キャンパス周辺地域について、住民、商店主、企業、文京学院大学ふじみ野キャンパスの学生・教職員等、潜在する地域活動の担い手を意識し、それらの繋がりを形成していく一歩となるよう企画したものである。

本地域の参画者として、文京学院大学、大井ショッピングセンター商店主、近隣住民、地域産官を設定し、これら5者の特性を際立たせ、重なりと異なりを自覚し合い、5者の共同によって実現できることを探ることに意義と必要性を見出し、音楽、造形、身体表現の各芸術領域の専門家を招き、芸術を通じた交流、地域の姿の見つめ直しを目指す活動を企画した。（身体表現は新型コロナウイルス感染症拡大により中止・延期）

【実施】

コロナ禍でなかなか人が集えない今、地域のすがたを少し変わった視点で探ることは出来ないだろうかと、このプロジェクトを実施した。音楽と造形の2つの芸術領域のアーティストの力を借りて、芸術の不思議な魅力と力をもって地域のすがたを感じ、向き合い、見すえることを目指す活動である。

プロジェクトは、現在と未来をテーマに、2つのワークショップで構成した。すべて、ふじみ野キャンパスを中心とする地域の方々に協力をいただき、まちラボふじみ野学生がアーティストと共に作品に仕上げていく活動であった。

【現在と向き合う音楽ワークショップ】は、身近な音から電子音楽を共同で創るプロジェクトを国内外で実施している作曲家・サウンドアーティストの柴山拓郎さんと学生3名、そして東京電機大学の柴山ゼミの皆さんとで、電子音楽の作品を制作した。電子音楽のもとになる素材は、実際にふじみ野市内の昔の暮らしで使われていた道具を使うときの音を使用した。完成した作品は、今年度時点ではオンラインで公開した。

【未来を見すえる造形ワークショップ】では、市内の小中高校生が描いてくれた絵や数字を、アーティストの近藤愛子さんと学生3名が、5年後のカレンダーに仕上げた。学生

と近藤さんとが何度もやり取りを重ね、カレンダーデザインを完成させた。カレンダーの印刷にあたっては、感染拡大により教職員で印刷、製本を行い、まずは関係者への配布をもって今年度の成果とした。

年度当初は計画していた【過去を感じる身体表現ワークショップ】では、近隣商店街の方々から、地域についてのエピソードをお聞きし、その内容をもとに学生とダンサー・振付家である細川麻美子さんが身体表現作品を創り上げる活動を予定していた。しかし、感染状況との調整がつかず、来年度以降へ延期とした。

感染対策のためにどれも Zoom での遠隔ワークショップであったこともあり、学生にとってもアーティストにとっても、また活動を地域の方々と共有するという点でも、なかなか難しい状況であった。しかし、完成作品と完成までの経緯を、今後、地域の姿を検討する様々な場面において、対話のきっかけや基盤として活用していきたい。

また、コロナ禍を経て地域のこれまでや今、これからについて考えていくとき、芸術も、その大きな助けになっていくことが感じられるプロジェクトとなった。

【成果】

電子音楽作品及び5年後のカレンダー作品が完成した。今後、創作物として登録し、機会を得て公開・配布していく。

【今後の予定】

電子音楽作品及び5年後のカレンダーについて、創作物登録を行い、内規に則り活用していく。

身体表現ワークショップについて、安心して実施できるよう状況を整えて、2022年度以降の実施を目指す。

【年間予定】

2020年度：プロジェクト申請、承認

2021年度：

4月：講師と打合せ継続。

5月：学内調整、詳細な計画検討。

6月：計画検討継続。

7月：第4回運営委員会にて内容協議・承認

8月：活動開始。講師、担当者による詳細打ち合わせ。

9月：芸術プロジェクトチラシ完成。配布開始。

参加学生確定。Teams グループチャット作成。

10月：造形、身体表現ワークショップ素材集め。

11月：造形ワークショップ全3回(11月12日・19日・26日 18:30～20:00／全てZoomにて完全リモート)実施(図1)。その後作品の仕上げ継続。
12月：音楽ワークショップ全3回(12月2日・8日・21日 18:30～20:00／全てZoomにて完全リモート)実施(図2)。その後作品の仕上げ継続。
1月：身体表現ワークショップ全3回予定(学内体育館に学生が集合し、講師とリモートで接続予定であった)。感染拡大により中止、延期。
音楽作品仕上げ。
2月：造形ワークショップ作品、音楽ワークショップ作品完成。公開及び配布。

【連携先】

Saitama Muse Forum

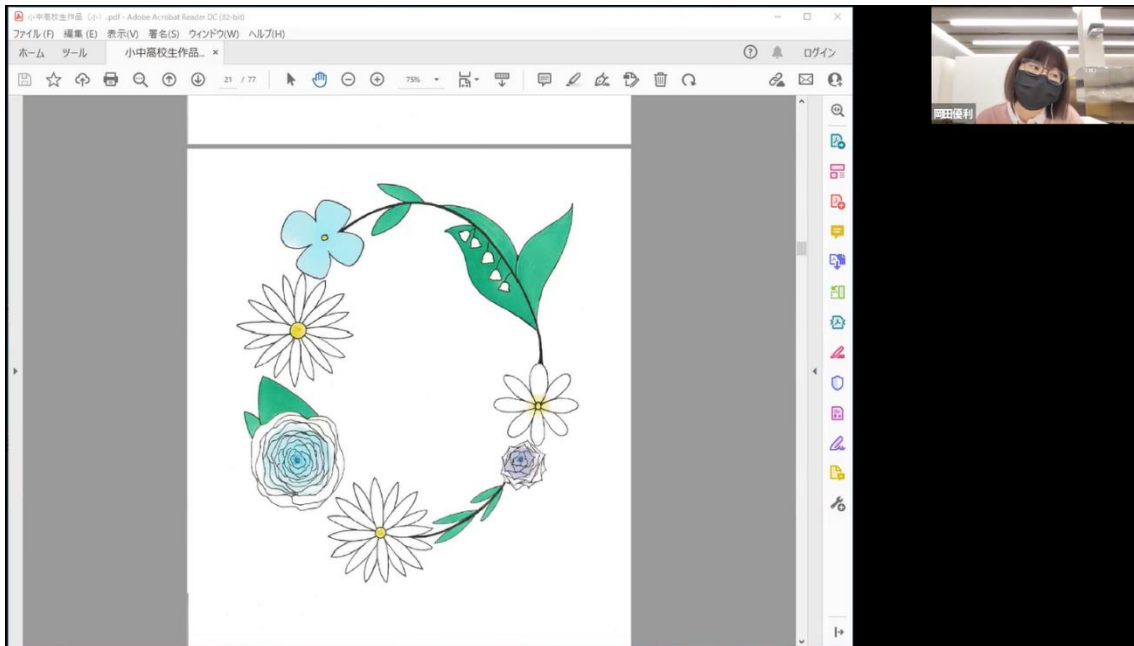
ふじみ野市役所産業振興課、埼玉県立ふじみ野高等学校、ふじみ野市立福岡中学校

【メディア紹介(学内・学外)】

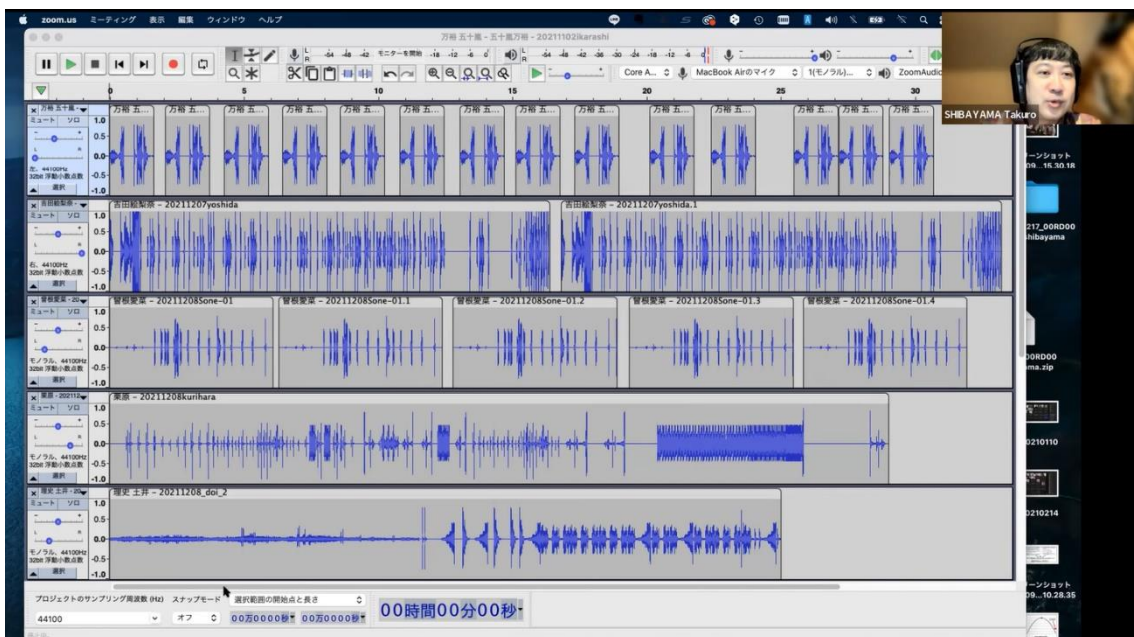
なし

【学問的成果(学会発表、論文)】

なし



▲ 造形ワークショップ実施の様子(Zoomにて実施)



▲ 音楽ワークショップ実施の様子(Zoomにて実施)

地域の衣食住取材・発信企画

【担当者（氏名）】（○：担当執筆者）

○菖蒲澤 侑、岩館 豊、文野 洋、栗原 真史

【目的】

2019年から続くコロナ禍により、地域で人が集まる活動や場が休止、縮小している。そこで、まちラボふじみ野の人材、知財を活用し、地域の衣食住をテーマとする取材と、地域新聞づくりによる発信を行うことで、2022年度以降のアフターコロナ期に向けて、地域財産の発掘、関係者との交流を促し、新たな関わりと未来への展望を生み出すきっかけとすることを目的とする。

【実施】

地域のすがたを様々な面から捉えること、そこで知ったことを整理すること、更に文章や絵などいろいろな方法で表現すること…何か楽しいことを発信、受信すること、それらが全て叶う（かもしれない）方法として、地域新聞の作成、発行に着手し始めた。

情報から娯楽まで様々な要素が詰まっている新聞というメディアについて、地域のために、何をどう、どのように取り上げるか、取材し、まとめ、発信するか。発信元の思いだけではなく、対象となる地域や取材相手、届ける相手のことなどを複雑に考えていき、継続していけば、学内外でのまちラボ活動をより発展させる基盤の1つにもなり得ると考える。

とはいえ、今年度は、授業以外の活動では地域に出ていくことを控えている状況にあった。そこで、地域の特徴的かつ協力してくださる企業や団体をお願いして、リモートでの取材を行い、記事にまとめた。文京学院大学ふじみ野キャンパスのすぐ近くに店を構える「たたみの橋本」さんは、非常に地域のことを考えているお店であり、学生たちと畳について調べながら質問を考え、店主にお送りして回答を得て、記事にまとめた。また、もう1つの取材先である「ほうきづくり友の会」さんは、ふじみ野でも行われていた伝統的な産業であるほうきづくりに、ほうきグサを育てるところから取り組んでいる団体である。ここには教職員が取材にお邪魔し、記事を作成した。また、学生たちにはコラム記事を担当してもらい、漢字クイズや間違い探しなどの読んでいて楽しいコーナーを作ってもらった。不自由な中で方法を工夫し、まずは第1号の発行が実現した。

【成果】

発行した新聞は、学内での配架、市役所、市の施設等での配架、近隣の小中学校での配布をしている。取材先からの反応も良かった。

【今後の予定】

今後、第2号以降の発行を検討中である。活動が少しずつ自由になっていく中で、文京学院大学だからこそ、この地域だからこそ、発行できる新聞に育っていくよう、様々な地域活動の仲間が増え、活動が育っていくための、小さいけれど大切な活動として継続していきたい。

【年間予定】

2020年度：プロジェクト申請、承認

2021年度：

4月

5月：地域新聞プロジェクトとして学生研究員と教職員が集合。Teams上のグループチャット作成。ミーティング開始。

6月：取材先、担当決定。質問事項決定。

7月：各記事の担当詳細に決定。記事作成開始。

8月：記事提出。第一稿作成。

9月：紙面修正。取材先確認。完成稿決定。

10月：印刷。配布開始。(10月1日発行)

11月：第2号ミーティング開始。以降継続予定。

12月

1月

【連携先】

たたみの橋本、ほうきづくり友の会、ふじみ野市役所産業振興課
ふじみ野市役所文化財保護課

【メディア紹介（学内・学外）】

【学内・活動紹介】

『文京学院』vol.774（文京学院大学学内誌・2022年2月28日発行）

【学問的成果（学会発表、論文）】

なし



▲ ぶんぶん新聞第1号表面

まちラボふじみ野ラッピングプロジェクト

【担当者（氏名）】（○：担当執筆者）

○菖蒲澤 侑

【目的】

- ①まちラボの理念である地域交流の場としての親しみやすさを創造するため。
- ②まちラボふじみ野の対面活動が可能になる時に向けた活動拠点のシンボル化のため。
- ③学生、教職員、地域の関係者等のふじみ野キャンパス利用者へのセンター存在の周知のため。
- ④まちラボ本郷との関連性を視覚的に明示化するため。

【実施】

まちラボふじみ野開設当初から予定されていたドアデザインを、まちラボふじみ野の外観ラッピングとして施すプロジェクトである。

学生研究員の交流と愛着形成を意図し手作業でのラッピングを行うパターンと、感染拡大状況に応じて業者に発注するパターンを想定していたが、感染拡大・課外活動の指針の検討が追い付かない状況の中、年度内のプロジェクト完了のために、業者発注による実現となった。

年度内プロジェクト完了のために、9月運営委員会にて業者発注による実施を協議、承認され、稟議等手続きを経て2022年1月に施工完了した。

倉嶋 正彦先生（本学経営学部）によるデザインを、ドア部分に施し、明るく、まちラボふじみ野の拠点としてのアピールがしやすい外観となった。（写真参照）

【成果】

まちラボふじみ野の外観が明るく、理念を示すものとなった。

まちラボ本郷との関連をセンター外観デザインにて示すこととなった。

【今後の予定】

学生研究員の増加のための勧誘や、感染状況が落ち着いた際には拠点としてより活用していく際、外観がシンボルとして機能していくものと思われる。

【年間予定】

2020 年度：プロジェクト申請、承認

2021 年度：

4 月

5 月

6 月

7 月

8 月：第 5 回運営員会にて、学生による活動とするか業者発注とするか協議。

9 月：第 6 回運営委員会にて業者発注を進めることを審議、承認

10 月

11 月

12 月

1 月：施工完了

2 月

【連携先】

なし

【メディア紹介（学内・学外）】

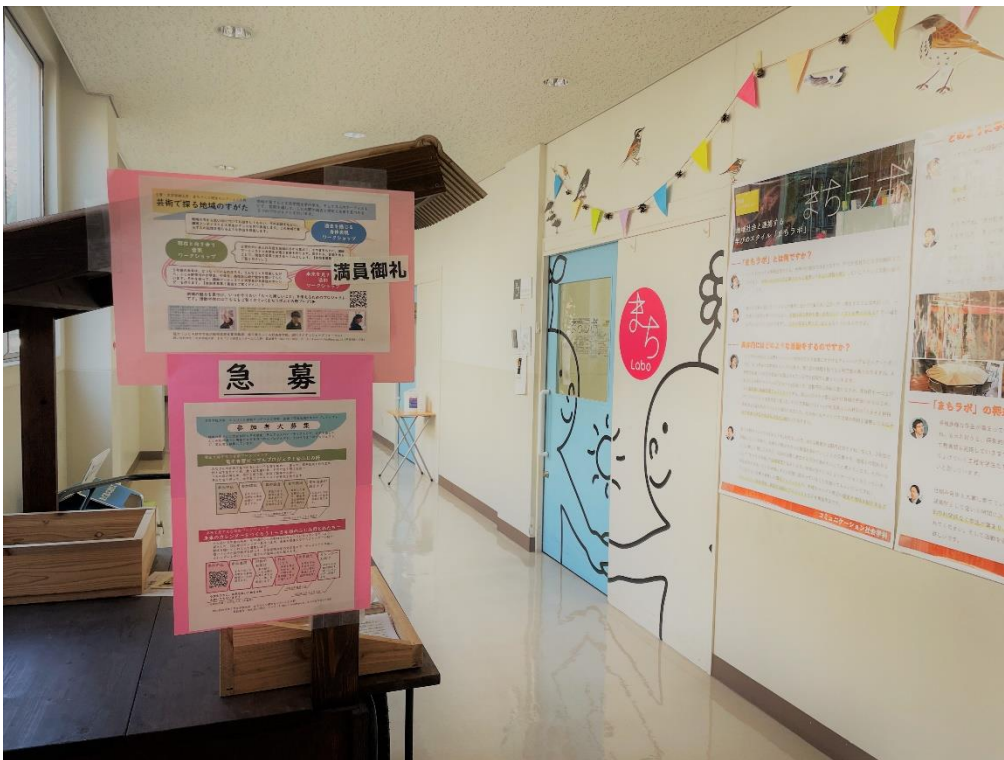
なし

【学問的成果（学会発表、論文）】

なし



▲ 施工されたドアラッピング



▲ まちラボふじみ野外観

障害者就労支援施設におけるインターンシップ・プログラム開発

【担当者（氏名）】（○：担当執筆者）

○田嶋英行 武田和久

【目的】

これまでの社会福祉実践は、経営やマネジメントといった概念を重視してこなかったが、現在障がい者の就労支援施設では利用者の工賃アップが継続的に求められていることもあり、それらの概念が必要とされつつある。人間福祉学科福祉マネジメントコースでは、「福祉×マネジメント」「福祉×経営」の理念を実現し得る人材の育成を行っているが、その経営やマネジメントを実際的に学ぶことが可能なインターンシップ・プログラムの開発を、施設職員とともに実施していくことを目的としている。

【実施】

4月20日（日）午前（担当：田嶋）企業の研修等で活用されている「類人猿診断」というプログラムの紹介をおこない、実際に参加者に対しておこなっていった。このプログラムの趣旨は、職場の人間関係の円滑化に必要なのは構成員の「タイプ」を知ることとあり、そして「タイプ」とは、チンパンジーやボノボといった類人猿の性格になぞらえ捉えることができる、というものである。実際にこのプログラムを展開することによって、参加者自身の「タイプ」を認識してもらうことができた。

6月20日（日）午前（担当：武田）以前からの「マネジメント・プログラム」の継続で、部下やメンバーのモチベーションやリーダーシップ力を高めるためのコンテンツとして「キャリアイメージの鮮明化」をおこなった。キャリアイメージを鮮明にすることにより、人間関係や環境要因に左右されずに内的モチベーションを高めることができるというものである。当日は自分自身のキャリアイメージの鮮明化を行い、そのことで部下やメンバーのイメージをより鮮明化できることを認識してもらうことができた。

11月6日（日）午前・午後（担当：田嶋）企業研修で活用されている「フライングカー・コーポレーション（FCC）」をおこなった。このプログラムは参加者に、おもに製造業（メーカー）で実際におこなわれている仕事内容を模擬的に体験してもらうことによって、自分が職場でどのように立ち振る舞えばよいのか、さらには他の参加者とのように効果的にかかわっていけばよいのか、認識してもらうことが趣旨となる。実際にこのプログラムを展開することによって、参加者自身、それらのことについて把握してもらった。

【成果】

来年度のインターンシップ・プログラム実施に向け、先方とのイメージの共有を図ることができた。この成果を実際に、インターンのなかで活かしていきたいと考えている。

【今後の予定】

1月16日（日）午前 「マネジメント・プログラム」コントロール可能・不可能
3月（日程未定） 施設職員によるインターンシップ・プログラムの開発

【年間予定】

2020年度：
2021年度：
4月 第1回研究会
5月
6月 第2回研究会
7月
8月
9月
10月
11月 第3回研究会
12月
1月 第4回研究会
2月

【連携先】

【メディア紹介（学内・学外）】

なし

【学問的成果（学会発表、論文）】

なし

みんなで作るふじみ野昭和アルバム

【担当者（氏名）】（○：担当執筆者）

○栗原真史、岩館豊

【目的】

大学がコーディネートの役割を果たし、地域住民を招き、大学周辺地域のふじみ野市の歴史をテーマとした交流会や展示会を開催する。とくにイメージを喚起しやすい写真や映像を活用し、多世代の交流を促進することをねらいとする。以上を通じて、これまで気づかれなかった地域資源の発掘や価値の再発見に貢献する。

また、郷土資料館と連携し、地域住民にとって「見せたい」「残したい」写真や語りを集めることによって、地域に点在する史資料の発掘・収集・保存に貢献する。

【実施】

昔語りの交流会の開催を目標にスタートしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、当初想定していた学生と地域住民の相互交流の場を設定するのが困難となった。そこで、2021年度は、①活動見学、②資料収集、③郷土資料館と大学の連携に関する協議・意見交換を通じて、次年度に向けたプレリサーチを行うとともに、地域内部でネットワークを広げるなどの下地づくりを行った。

第一に、ふじみ野市内において、どのような地域学習・歴史学習が行われているのかを調べた。具体的には、大井郷土資料館・上福岡歴史民俗資料館や資料館・文化財ボランティア、地域住民自身の行っている複数の地域学習団体にお申し、聞き取りや実際の活動への参加・見学をさせていただいた。

第二に、ふじみ野市に関わる基礎的な資料を収集した。とりわけ、大井郷土資料館・上福岡歴史民俗資料館より、郷土史や企画展・特別展図録を含む合計21点の資料をご寄贈いただいた。

第三に、大井郷土資料館・上福岡歴史民俗資料館・ふじみ野市役所社会教育課文化財保護係と、大学との地域活動の連携のあり方や課題について、合計2回の協議・意見交換を行った。また、2021年3月には、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイヴズを訪問し、山本唯人先生から先行事例の経験や地域資料の収集・保存に関して貴重な助言をいただいた。

【成果】

ふじみ野市には地域の歴史を学び伝える自主的な活動が住民自身によって盛んに取り組まれ、関連する団体・サークルが数多く存在することが分かった。また、これらの活動に関する情報と人的なつながりを得ることができた。

地域の歴史や記憶を掘り起こし、学び伝えることへのニーズと取り組みは、様々な水準で見られた。すべてを網羅できたわけではないが、綾の会やほうきづくり友の会など地域の伝統技術の継承やものづくりを行う団体や、自主学習会、小中学生に昔遊びを教えるボランティアが活発に活動している。なかには 20-30 年以上の活動を続けている団体も見られるなど、郷土資料館・図書館・公民館を拠点として草の根での活動が分厚い層をなしている。これらの地域住民自身による豊かな活動の流れを汲むかたちで、次年度の地域活動を企画・展開する必要がある。

また、郷土資料館との協議を重ねることで、資料提供元との意思確認の問題、資料の選定、メタデータの収集の問題など、大学の地域活動との連携による資料収集・保存の具体的なイメージと課題を浮き彫りにすることができた。

【今後の予定】

2022 年度には、2021 年度で得られた知見や地域でのつながりを踏まえつつ、見送っていた学生・地域住民による昔語りの交流会や、併せて、郷土資料館や市役所社会教育課文化財保護係との連携のもと、地域住民に開かれたかたちでの地域史に関わる研究会・シンポジウムの開催を予定している。

【年間予定】

2020 年度：

3 月：法政大学環境アーカイブズを訪問、綾の会見学、郷土資料館より資料寄贈

2021 年度：

4-6 月：資料館・文化財ボランティア活動見学、亀居中央商店会松尾会長聞き取り

7 月：郷土資料館との協議①、交流会開催の見送り決定

8-9 月：資料館・文化財ボランティア活動見学、大井中央公民館聞き取り

10 月：ほうきづくり友の会見学

11-12 月：西原小学校文化財展示室づくり活動見学、大井図書館聞き取り

1 月：郷土資料館との協議②・2022 年度の企画に向けた話し合い

2 月：ふじみ野市地域文庫活動見学

【連携先】

大井郷土資料館・上福岡歴史民俗資料館、ふじみ野市社会教育課文化財保護係

【メディア紹介（学内・学外）】

なし

【学問的成果（学会発表、論文）】

なし

▼ 見学させていただいた主な地域活動

団体	見学内容
ふじみ野市資料館・文化財ボランティア	・定例会議（毎月参加） ・西原小学校の空き教室を活用した文化財展示室づくり活動
綾の会	・福岡河岸記念館での機織り体験活動
ほうきづくり友の会	・小学校向けほうきづくり体験準備
地域文庫（江川文庫、こぼと文庫、つつじ文庫）	・活動見学

参加・見学させていただいたそれぞれの団体の方々、大井郷土資料館・上福岡歴史民俗資料館・ふじみ野市役所社会教育課文化財保護係の方々には、たいへんお世話になった。

大井中央公民館の関口正幸館長、および大井図書館の本田健二館長には、それぞれの施設で展開している市民活動・文化活動・学習活動に関する聞き取りに快く応じていただき、貴重なお話をいただいた。

亀居中央商店会の松尾勝一会長には、大学周辺の地域や商店街の変遷に関する聞き取りに加え、当時の写真・資料を貸与いただくなど、たいへんお世話になった。

厚くお礼申し上げます。



▲ 寄贈いただいた地域資料（一部）

3. プロジェクト以外の活動

2020年度オンライン成果報告会の開催（岩館豊）

2021年6月19日（土）18時から20時、2020年度のまちラボふじみ野活動報告会がオンラインで開催された。学生7名、教職員5名が参加し、2020年度のプロジェクトについて学生から報告がなされ、ふりかえりを行った。学祭やワークショップでは、本番ぎりぎり直前まで学生同士でミーティングを行い、助け合いながら企画を実現させていた体験が報告され、コロナ禍で（だからこそ）「できた」ことの確かな手応えが共有されていたように思う。

「子ども食堂等活動報告会」への参加（岩館豊）

2021年7月30日（金）14時から15時半にかけて、ふじみ野市サービスセンターホールにて「子ども食堂等活動報告会」（主催：ふじみ野市福祉総合支援チーム）が開催され、まちづくり研究センターふじみ野からコロナ禍前後の取り組みについて報告を行った。「子どもの居場所」なるものの切実さや運営上の課題がコロナ禍で一層明らかになる一方で、地域の取り組みを可視化させ、ゆるやかにつながっていくことを促進する、意義ある契機となった。



▲ 「子ども食堂等活動報告会」当日の様子

八雲通り商店会「WELCOME ステッカー」作成（葛蒲澤侑）

ふじみ野市産業振興課、八雲通り商店会との連携により、商店会の「WELCOME ステッカー」を作成した。

新型コロナウイルス感染症拡大により、対面でのミーティングや現地視察等を行わず、担当教員による情報提供と、まちラボふじみ野の学生研究員によるアイデアを組み合わせ、ステッカーデザインを行った。完成したステッカーは八雲通り商店会に掲示される。



▲完成したステッカー（デザイン：人間学部心理学科4年 花城美彩さん）

「ぶんぶんロゴタイプ・シンボルマークの使用に関する内規」の作成・承認（葛蒲澤侑）

2021年度に作成した「ぶんぶんロゴタイプ・シンボルマーク」について、まちづくり研究センターの創作物として、著作権を有した上で管理をするために、創作物登録及び学内外の使用申請とその許可に関する管理内規を作成し、2021年8月に承認された。これにより、ロゴやシンボルマークに込めた想いと共に、地域活動体としての「ぶんぶん」を継続・発展していけるものと思われる。

今後、まちづくり研究センターふじみ野が主催するワークショップ等で創作物が生じ、その後の使用が見込まれる場合には、同様の内規を創作物ごとに作成し、創作物登録・管理をしていく。

まちラボふじみ野2021年度事業報告書の作成（栗原真史）

まちラボの活動は、2020年度まで、本郷・ふじみ野での合同での報告書にまとめられてきたが、それらに加えて、2021年度より、まちラボふじみ野で個別の報告書（本報告書）を作成することとした。

新たに個別の報告書を作成する目的としては、（1）活動の詳しい実施状況、年間予定、連携先など、合同報告書に掲載されないふじみ野での活動の具体的な情報を記録すること、（2）ふじみ野地域向けに配布するためにローカルな情報を掲載すること、（3）記録の作成によって活動の成果・課題の共有や引継ぎに活用すること、の3点が挙げられる。以上について、2021年8月に提案され12月に承認された。

2021年度は、シンプルな構成での発行を行い、基礎資料としての下地が整えられたように思う。また、印刷・製本をふじみ野の地元業者である有限会社・荻原印刷様に依頼し、地域色を強めた。2022年度以降、さらにまちラボふじみ野に適した報告書のあり方を模索する予定である。



▲文京学院大学開学 30 周年（2021 年 7 月）に
ふじみ野キャンパスで開花したリュウゼツラン

2021 年度
文京学院大学
まちづくり研究センターふじみ野
事業報告書

著者・ 文京学院大学まちづくり研究センターふじみ野
発行者
住所 〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保 1196
発行日 2022 年 3 月
印刷所 有限会社・荻原印刷

